

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000661		
法人名	有限会社あかつき		
事業所名	グループホームあかつき	ユニット名	さくら館
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南18073番地		
自己評価作成日	平成22年8月24日	評価結果市町村受理日	平成22年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000661&amp;SCD=320">http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000661&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年9月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人一人の生き生きとした表情がみられ、「今という時間」が大切にできるような接し方、言葉かけを心掛けている。</li> <li>・少しでも現状維持が出来るよう、筋力低下防止のため毎日手足の筋力体操に取り組んでいる。</li> <li>・菜園を利用して、作る楽しみ、収穫の楽しみ、食べる楽しみを味わっている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな環境に立地し、利用者はゆったりとした空間の中で安心して生活している。毎日の生活の中で利用者が「ゆったりと楽しくその人らしく」という理念を掲げ、一人ひとりの思いを重視した穏やかでさりげない支援が行われている。地域との交流も大切にし、定期的に発行されるあかつき便りを自治会に配布、また、地域の長寿会にパンフレットを配布するなど絶え間ない交流を続けている。毎月行うケア会議では、職員が積極的に意見を出し合い運営に反映させている。利用者、職員間のコミュニケーションを密にし、どこにも負けないケアを目指し職員が一丸となって努力している様子が見られる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており、ケース会議や勉強会等で地域密着型サービスについて話し合ったりしている。		利用者一人ひとりの人権を尊重し、毎日をゆったりと楽しく過ごすこと、また、地域との交流を大切にという理念を掲げている。管理者、職員はそれを十分理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への行事や会合に参加している。散歩時には、庭先を使わせていただき話しかけをしったりしている。		毎日の散歩途中にご近所の顔なじみの家に立ち寄り、お茶を飲んだり、定期的に発行するホーム便りを自治会に配布する等、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に参加して、認知症についての簡単な話をしたり、地域の方から時には相談を受ける事もある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた意見を取り組んだり、次回の会議には取組内容の報告を行っている。		決められた議題のほかに、その時節の話題を取り上げ、意見の交換が行われている。出された意見が運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに足を運んだり、来訪時には状況を報告したり、又は相談を行ったりしている。		運営推進会議を通じた連携や窓口へ赴いての相談、電話連絡など市町村との連携の取り組みがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等についての勉強会を行ったり、外に出られるときは止めずに一緒に散歩をしたりして対応している。常に開錠している。		身体拘束をしないケア、高齢者虐待防止について、ケア会議や外部研修会への参加で理解し、職員全員で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会やミーティングを通じて周知している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要ケースは管理者一人に対応しているため他の職員への理解度は浅い。 制度についての勉強会を行った事はある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家庭の協力の大切さも含め、リスク、重症化した時の対応の事等、詳しく説明して同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に自由記録ノートを設けている。 何でも言える信頼関係づくりに努めている。 意見、要望については話し合い、反映させている。	家族会の組織もあり、自由に意見を出し合える環境作りがされている。小さな意見も見逃さず全職員で検討し、家族にも結果を伝える工夫がされている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で聞くようにはしているが把握しきれない部分もあると思う。 コミュニケーションを図るように心掛けている。	職員が自由に意見や要望が出せる雰囲気が出来ている。管理者は職員の要望をできる限り受け入れ、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握しているつもりではあるが介護の現場にずっとついていないので表面に見えてこない部分もあると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員自らが自分達に必要な事を見極め自主的に参加してほしいと、管理者に研修等の調整をしてもらっているが、人員の不足などによりままならないこともある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域別の活動等に参加している。又、町外グループホームとの勉強会や納涼祭、敬老会等の交流をしてお互いの勉強の場を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にGHIに見学に来ていただいたり、自宅又は入院先訪問を行って信頼関係づくりをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護において大変だった事を聞き、又、ホームでの生活をどのようにしていったほうがよいか聞いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等に相談等を行い対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、花つみなどを共有し、利用者から手伝ってもらうこともあり、教えていただくこともある。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHの生活状況を連絡しながら面会にも来ていただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との話し合い(家での生活)、無理強いせず、GHの雰囲気になれるようにしている。	近所のなじみの家を訪問し、お茶を飲みながら世間話に興じたり、またそれまで時々通っていた温泉に行くなど、これまでの関係を継続していく支援が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友達のように気の合う方の座席の配慮、又、関係のよくない方の座席の配慮を行っている。 利用者同士がうまくいくように調整を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動された方には、生活環境支援内容、留意点等情報提供したり、家族へ電話をかけたりにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性の強い方、早くしてもらいたい人(ケア)なるべく他の方との調整を行い待たせないようにしている。		日常のかかわりの中で、利用者のささいな動作や表情から利用者の思いをくみ取り、ケア会議で職員全員で検討し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何気ない会話の中に今までの生活状況を話されよく聞いている。又、面会に来られた家族、その他の人からも情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事を個の全体像から分析し行っている。決して無理強いはない。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画をしている。本人、家族、スタッフ。		利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の希望や要望に耳を傾け、介護計画を立てている。職員は、毎月の会議の中で利用者の現状を確認し、お互いに意見や要望を出し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を継続的に行い、ケア実践の状況を申し送り、月末に個々の計画に基づいた評価をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院等の対応をしたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、地域の大人や子供達、又、消防関係の方が来て下さり話をしたりする機会がある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の具合、変化に対し、家族連絡を行っている。受診時には情報提供を書面で伝え、医療者へも伝達されるよう連携している。スタッフが同行することもある。	本人や家族の希望する従来のかかりつけ医の受診となっている。同行の家族から受診後の報告を受け次の受診につなげている。また、主治医との適切な連絡も取れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生体機能の変動観察を行い、そのつどカンファレンスを行うことで、対応の統一共有を行っている。結果的に受信を必要時早期家族へTEL報告、対応を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリ・情報提供に対し、施設内での細かい生活情報も必要時伝え、連携を行っている。 近医の入院時は毎日。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向に対し、カンファレンスにより、職員間で方針を確認する。統一した支援を行っている。	ホームの基本方針として重度化や終末期の利用者に対してのターミナルケアは行っていない。現在のところホームでできる限りの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリ・ハットにて(事象の整理、問題点の抽出、背後要因の探索など)カンファレンスを行っている。その対応策も改善している。実践、実技も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年 火災訓練の実施。 (利用者、利用者家族、消防関係、地域関係を含む)	年に2回避難訓練を行っている。消防署や近隣住民の協力もあり、その中で夜間を想定した訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格に合った言葉使いを心がける。 利用者の話には否定せず受容する事を心がける。		日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心がけ、利用者の誇りを大切に、さりげない声かけや笑顔で傾聴するなど、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した対応が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自立の程度によって自己決定を支援している。 会話の中でやりたい事を聞き出したり思い出させたりできるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動は自己決定優先で行う。 可能なかぎり希望どおり行うよう支援する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立できている人には支援をし、介助の必要な人にはその人らしい身だしなみを心がける。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時にはスタッフも同じテーブルで会話、声かけしながら食事を楽しむ時間を共有している。 好きな物は少し多めにしたり、味付けを好みで濃くしたりする。		利用者の好みや家庭菜園で取れた野菜や近隣住民から頂いた食材で献立を考え調理がされている。また、職員と一緒におやつ作りや、下ごしらえ、盛りつけ、後片づけなど利用者のできる範囲でかかわる取り組みがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	暑い時期は特に水分補給に気を配る。一年を通じて水分量を測定している利用者もいる。食べる量も記録して管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後一人ずつ見守りながら行っている。充分でない時は声かけしたり介助したりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った(介助、自立、誘導)状況を知る。そしてパターンを意識して常に目を向け、キャッチしている。 チェックをしながら行動により爽快感を得てもらっている。又、健康状態を確認している。		一人ひとりの排泄リズムを把握し、さりげない言葉かけでトイレに誘導している。オムツ使用の利用者もトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(食品のバランス)片寄りを少なく、繊維物を工夫する事により、食してもらっている。 水分量、時間的に1500ml/日を目標にし、とってもらっている。 毎日レク時の運動を取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人差(湯の温度、浴場、長風呂)など最大限満足と清潔感を目的に行動している。		毎日入浴が出来る体制にある。入浴が出来ない場合は清拭を行い、また、入浴を拒否する利用者に対しては、環境や気分を変え、隣りのユニットのお風呂を利用するなどの工夫が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中か夜に向けて全てに日々運動、精神安定(声かけ、娯楽)を取り入れて、良眠を得ていただいている。又、その人の休息パターンも大切にしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの内容によりカンファレンスなどを通じ、お互いに薬の目的、副作用を十分把握した上で、個々の確実(指差呼称し、口に含み飲用)確認する。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力に応じた、出来る範囲内を最大限取り込んでいる。(無理強いは避け、楽しく作業、役割分担も自発的に行ってもらっている)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年中を通して、運動、散歩、家庭菜園と外に出て行き、楽しみを取り入れている。 地域への参加に対しては、今後こまめに作るよう努力している。 近隣の方が入居されているその方を中心に、自宅への散歩、顔見知りを広く作っている。		毎日の散歩コースを時々変え、気分転換を図りながら行っている。歩行困難な利用者は車いすを利用し、時には近所のお寺にお参りをしたり、また、ドライブやレストランで食事をするなど、利用者の要望に沿った外出支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	さくら館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で病院等のお金の支払いをされる方がいらっしゃる。お金の管理の方はスタッフが預かり、必要時にその分だけその方に渡すように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で、電話や手紙をされる方は少ないが、希望があれば、できる限り支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁にはその季節ごとの工夫や利用者の方の作品を貼ったり、天井より吊るしたりしている。 又、昔の叙情歌を流したりして、一緒に歌うなど楽しい空間づくりの工夫をしている。	木をふんだんに使ったりリビングはやわらかな光が入り、開放感がある。大きな開口から煙や空を眺めることも出来る。不快な匂いも音も一切感じられず、落ち着いた空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望にあわせ、他者との会話の場の提供。 居室などでの、本人の自由な過ごし方が出来るように支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団や、タンスなどでの配置など、本人や家族と相談して決め、本人にとって一番住みやすい環境作りを支援している。	居室は入居前から使いなじんだタンスや家具が持ち込まれ、利用者の好みに合わせたシンプルで落ち着いた、居心地の良い部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内表示や、居室の名前表示などを行い、移動時の見守り、声かけ等を行い、自立した生活ができるように支援している。			